

市長見聞録



大和市長
大木 哲

市民の皆さん、こんにちは。
今回は、二つのことをお話ししたいと思います。

市内の防犯灯約1万灯をすべてLEDに交換

本市は今年度末までに、市内に設置されている約1万の蛍光灯防犯灯をすべて、LED防犯灯に交換します。各自治会から防犯灯を譲渡していただき、本市の管理のもとで作業を進めます。

LEDは蛍光灯よりはるかに長持ちするうえ、近年価格も下がっており、10年間のリース契約とすることで、費用を抑えることができます。さらに、LEDは蛍光灯と同じ明るさを少ない電力で確保できるため、年間の電気料金と維持管理費の合計はこれまでより6割減って約2,000万円となります。

文化創造拠点の建設開始、2年後に開館へ

7月、大和駅から東に約250mのプロムナード沿いで、大和駅東側第4地区第一種市街地再開発事業の建設工事がスタートしました。ここには大和市の文化創造拠点を整備し、平成28年11月に開館する予定です。

地下1階地上6階建てで、地下1階に駐車場と駐輪場、1階には座席数約1,000席のメインホールと約300席のサブホールを備えた芸術文化ホールのほか、ギャラリーも設けます。また2階には市民交流ラウンジ、3階にはこども図書館や屋内こども広場、音楽スタジオを設置します。さらに4・5階は図書館、6階は生涯学習のフロアとします。市民の皆さんには楽しみにお待ちしております。

建設を決断したのは、本市では文化施設整備が大きく遅れていたからです。本市の芸術文化ホールの座席数は市民1人当たりに換算すると県内19市で最も少なく、市内最大の座席数約600席の生涯学習センターホールは老朽化しています。また、本市と同規模の人口の市ではほとんど整備されている100平方m以上の公営ギャラリーが本市にはなく、本市の図書館は設備も蔵書数も十分とはいえません。文化の薫る街づくりのためには文化創造拠点の整備が必要と考えました。

一方、市民の皆さんにとって一番気になるのは費用だと思います。整備費の総額は約121億円、このうち市の借金(市債)は約62億円となります。しかし本市は、この7年間で借金を約150億円減らし、貯金(財政調整基金)を約30億円増やした実績があり、無理なく返済できます。市民の皆さん、ご安心ください。

今回は、この辺で・・・。

厚木基地の早期返還と基地対策の抜本的改善を要請

市民・議会・行政の代表者から組織される大和市基地対策協議会(会長・大木市長)は、8月27日、防衛省や外務省などを訪問し、「厚木基地の早期返還と基地対策の抜本的改善に関する要望書」を提出しました。この要望書では、空母艦載機移駐の一日も早い完了や厚木基地の負担軽減の早期実現を図ること、基地周辺対策などの拡充を求めました。また、ここ数年、空母の横須賀出港後の深夜に艦載機が飛行し、市民に甚大な被害を及ぼしているため、深夜の飛行をしないことも併せて要請。さらに

は、7月に続き、8月にもオスプレイが厚木基地に飛来したことを受け、これに対する市民の懸念を伝えるとともに、負担増加につながりかねないなどと指摘。市民の負担軽減に最大限努力するよう強く求めました。これに対し、中島明彦防衛省地方協力局長は、「移駐については着実に進め、その進捗についても情報提供をしたい。また、夜間の飛行については、やり方を工夫しながら、米軍に引き続き申し入れたい」などと述べました。外務省の鈴木秀生北米局参事官は、「空母艦載機の岩国移駐を速

やかに進めるため、防衛省と協力し、騒音規制措置の遵守や安全対策については引き続き米軍に働きかけていく。オスプレイについては、今後とも、安全性の確保と地元住民の生活への配慮について米側と協議するなど、最大限努力したい」と述べました。



外務省で要請する大和市基地対策協議会の委員たち(写真左)

● 市役所基地対策課基地対策担当
☎(260)5310 FAX(260)5316

さらにこの後、米国外使館を訪問。市民が日頃から受けている騒音被害の実情を伝えるとともに、一日も早く空母艦載機を移駐するよう求めました。これに対し、カート・オフデハイド安全保障政策課課長補佐は、「騒音については深刻にとらえている。移駐については日本政府と緊密に連携を取っている」などと述べました。

大和市基地対策協議会では、今後も基地にかかわるさまざまな問題の解決に向けて取り組んでいきます。